

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

教学マネジメント部門 評価・推進部会

(責任者名) 山澤 一誠

(役職名) 教務部長

② 自己点検・評価体制における意見等

| 自己点検・評価の視点                   | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等   |
|------------------------------|--|
| 学内からの視点                      |  |
| プログラムの履修・修得状況                | 当該プログラムは2023年度より開始したため、修了者はいない。情報工学部における当該プログラムの履修者数および履修率について、履修者数を1年次における各学科の当該プログラム対応科目をすべて履修している学生とすると、学部全体で305名、履修率は学部全体で72.1%だった。そのうち、履修した対応科目の単位をすべて取得した学生は161名、単位取得率は52.8%だった。来年度以降、各科目単位で学生の単位取得率を向上させるため、課題提出がおろそかになってしまう者等を早期に抽出し、個別に学習支援を行う。 |
| 学修成果                         | 当該プログラムは2023年度より開始したため、学生は1年次科目を履修している。対象科目における学期末の学生へのアンケートでは、「私たち情報工学科にとってとても大切な講義だと思います。プログラミングに初めて深く触れることが出来ました。」「自分はあまりプログラミングをしたことがなかったが基礎的なことから学べるため理解しやすかった。」等の回答があった。今後当該プログラムを通じて学ぶに当たり、基礎となる知識を与える授業とすることができた。                                |
| 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度        | 本プログラムの対象科目における学期末の授業アンケートでは「色々な人工知能について知ることが面白かった。」「AIがどのように誕生したのかAIの初歩的な仕組みを学ぶことができた。」「画像処理技術やVRなども学びたいと思いました。」等の回答があった。   |
| 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度     | 本プログラムの対象科目における授業アンケート結果では、「人工知能についての内容を広く学べます」「復習で自分でプログラムを作る練習をすると課題が取り組みやすくなる」「授業内で一つ一つのプログラムの意味をしっかりと理解することが重要」「関数、構造体はとても難しいため重点的に学ぶことをお勧めします。」等、学生自身が科目の重要性について理解をした上で、後輩学生へのアドバイスとなる内容の回答があった。  |
| 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況 | 1年生を対象とした入学直後のオリエンテーションで周知を行うとともに、課外で「FIT-ITセミナー」として、学生向けにデータサイエンスに関連する次世代型企業を招聘し、産業界で起こっているDXIに対する理解の浸透を目的とした講演会を開催するなどの取組を行い、履修への意欲喚起を図った。   |

| 自己点検・評価の視点  | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等  |
|---|---|
| 学外からの視点   |   |
| <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>  | <p>本プログラムは、2023年度から1年次生を対象として開講されたため、本プログラムを履修し、修了して卒業した学生はいない。2027年度以降、学生の進路・採用状況等を把握していく。</p>                   |
| <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>  | <p>当該プログラムについて、産業界の外部委員が参画する会議体にて、履修状況や、対象科目における学期末の授業アンケートの結果を報告し、評価を得た。(2024/3/12開催 令和5年度第2回 福岡工業大学人材育成協議会)</p> |
| <p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>  | <p>一部の科目において、取り扱う題材に関して社会の実例データおよび実課題を取り上げることで、学生が好奇心を持つことができるよう工夫している。</p>                                       |
| <p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p> | <p>学生の履修状況及び学期末の授業アンケートの結果に基づき、授業内容及びその方法の見直しを行っている。</p>  |